県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻176号　令和2年（2020）3月13日　Vol.50 No.3

トピック展示のギャラリートークで講師の話に耳を傾ける聴衆

令和元年秋、青森県から新種の蛾が発見されたニュースが新聞に大きく取り上げられました。「クロビロードスカシバ」と名付けられたその蛾は、発見場所の津軽にちなんで、学名を *Paranthrene tsugaru*（パラントレーネ・ツガル）とされました。蛾なのに、どう見てもハチにしか見えないという、見事な「擬態」も大きな話題となりました。

青森の自然に関するビッグニュースを受けて、当館では、郷土の豊かな自然への興味・関心を深めてもらう絶好の機会であると考え、さっそく新種を紹介する「トピック展示」を開催することにしました。会期は、令和元年11月26日～12月26日の約1ヵ月間で、途中、12月21・22日の土日には、ギャラリートークも行いました。（上の写真）

この新種を発見したのは、弘前市在住の工藤忠さん親子で、長年取り組んできた研究の中で、偶然に得られたものだと、工藤さんは語っています。

そのきっかけは、2018年6月、弘前市相馬地区で、スカシバガ類の研究用に合成された人工フェロモンを使って誘引実験を行なっていたとき、正体不明の蛾が飛来したというのです。

工藤親子は、その正体を解明するため、相馬地区のほか八甲田山や岩木山、白神山地などで、2年間にわたって50回以上調査をくり返しました。その結果、最初のフェロモンへの飛来は偶然であり、本来のフェロモンは全く違うことがわかり、得られたのは相馬地区からだけのわずか10個体でした。

その標本は、日本蛾類学会の岸田泰則会長に送られ、国内外のスカシバガ類との比較研究が行われた結果、新種であることが判明し『日本蛾類学会誌』に発表されました。

新種を記載する場合には、新種の中の1個体をホロタイプ（正模式標本）として指定し、同時に、ほかの複数の個体をパラタイプ（副模式標本）に指定して、博物館に収めるのが普通です。今回のクロビロードスカシバの場合、ホロタイプは東京大学総合研究博物館に、パラタイプの一つは当館に寄贈されました。

工藤さん親子は、2014年にも、ミチノクスカシバ(*Nokona michinoku*) を岩木山から発見していますが、そのパラタイプの一つを、クロビロードスカシバとともに寄贈していただきました。

寄贈されたクロビロードスカシバのパラタイプ

展示やギャラリートークには、昆虫や植物に関心を持っている方ばかりでなく、日頃講座・セミナーに参加されている方、新聞やテレビのニュースを見て来た親子連れの姿もありました。

取材に訪れた新聞社は共同通信を含め7社、テレビ局3社の記者も熱心に取材され、大きく報道してくださったことも集客に大きな効果がありました。

（主任学芸主査　太田正文）

歴史展示室おすすめ「蝦夷錦龍文打敷」

蝦夷錦は、江戸時代、清国（中国）から、アイヌ人の手を経て日本にもたらされた中国製の絹織物を指します。アイヌ人は、当時「山丹」と呼ばれた地域（現 ロシア沿海州、アムール川下流域）から、樺太を経由して蝦夷錦を持ち帰りました。それらは、希少性と美しさにより、高値で取引されました。アイヌ人は、蝦夷錦を衣服として使用しており、その様子は当時の絵画でもうかがえます。

青森県内では蝦夷錦が寺院やかつて廻船問屋や蝦夷地の漁場を経営した旧家を中心に40点ほどが確認されています。県内の蝦夷錦は、袈裟や打敷などの仏具に加工されて用いられたものも数多く保存されています。

当館で展示している蝦夷錦は、特に珍重された五つの爪を持つ龍の文様で、裏には「安政五年（註、西暦1858年）戊午七月」と屋号の墨書があります。この墨書の示す時期に小泊の播磨屋六兵衛が入手したものと考えられます。

（学芸主幹　佐藤良宣）

蝦夷錦龍文打敷

蝦夷錦牡丹文打敷

企画展「縄文遺跡群と県立郷土館」を終えて

12月7日から1月30日まで開催した当館発掘調査品を一堂に展示する初の企画展「縄文遺跡群と県立郷土館」が無事終了しました。展示資料総数924点。当館資料781点のうち約400点は初公開でした。一博物館の発掘調査資料で旧石器時代から縄文・弥生時代の各時期を網羅できる展示は数少なく、来館者は資料の豊富なことに驚いていました。縄文草創期の大平山元Ⅰ遺跡と長者久保遺跡を同時に、さらに「北海道・北東北の縄文遺跡群」の資料も一堂に見ることができる貴重な機会にもなりました。

企画展関連行事は毎回予想を上回る大勢の方が参加されました。2回の特別講演は110名(12/7)と86名(1/25)、土曜セミナーは50～60名。縄文を体験するワークショップには40～50名が参加し、子供から大人まで楽しんでいただきました。あけび蔓細工を作る特別講座も受付開始直後に定員に達しました。

この企画展で、考古学や縄文文化・世界遺産に関心が高まっていることを実感しました。この機運が継続するよう、当館でも今後様々な企画を行っていきたいと思います。企画展に参加・協力いただいた皆様ありがとうございました。

（主任学芸主査　杉野森淳子）

大平山元Ⅰ遺跡(左)と長者久保遺跡(右)の資料

ワークショップ　石斧を使う体験コーナー

企画展「縄文遺跡群と県立郷土館」図録の訂正について

現在、正誤表（2020.1.4付版）を添付し、図訂正シール(33頁)を貼り付けた図録を提供しております。お手元の図録に備わってない方には無償でお配りしますので、当館まで電話・FAXで連絡をお願い申し上げます。

子・ねずみ・ネズミ ワールド

新春干支展「子・ねずみ・ネズミワールド」を令和元年12月20日～令和2年1月30日に行いました。

2020年は子（ねずみ）年。ねずみは大昔から人類にとって最も身近な動物のひとつでした。ねずみは繁殖力が強く、子宝の象徴となることも多い動物で、子孫繁栄や豊穣をもたらし、大黒様の使いだとも言われています。

この企画では、青森県ゆかりの「ねずみ」やお正月にまつわる資料約30点を集めて展示しました。エントランスには、青森市出身の彫金作家・小林尚珉の十二支より「子」の彫金作品、青森市出身の版画家・加藤武夫の「子年の多色木版画の年賀状」、また、いろとりどりのかわいらしい十二支の郷土玩具を展示しました。

自然展示室では、葉がねずみの尾に似ている「ネズミノオゴケ」といった植物。歴史展示室では、十和田湖の「子ノ口」の地名のつく絵はがきや鳥瞰図。民俗展示室では、正月のお菓子「うんぺいの口取り」、先人展示室では、子年生まれである平内町出身の生物学者・畑井新喜司の「白ネズミの研究」などを展示しました。また、美術分野からは、現在行っているコーナー展示「鈴木正治の世界」の中で、孔版「十二支」を展示しました。

干支展の資料には、ねずみのイラストの入ったプレートを付けて、探しながら館内を回って楽しめるようにしました。毎年恒例の企画ですので、来年もぜひご覧いただきたいと思います。

（主任学芸主査　中村理香）

小林尚珉の十二支より「子」

『鈴木正治の世界』孔版「十二支」

防災訓練

2月13日に郷土館職員全員参加の「防災訓練」を行いました。貴重な資料を数多く収蔵している郷土館では、年に2回訓練を行っています。

去年、世界遺産の観光名所が火災に見舞われました。郷土館も他所事ではありませんので、訓練は緊張感を持って行われました。

まず最初に行ったのが「避難訓練」です。職員にはそれぞれ役割があり「お客様の避難誘導」「連絡・通報・館内放送」「収蔵庫確認」と様々です。自分はどう行動すればよいのか、避難場所はどこなのかなど、有事の際の役割を再確認していました。

「収蔵資料の持ち運び訓練」は学芸員主体で行われ、実際に大きな運搬用台車を出して避難ルートの共有をしました。

水消火器による「消火訓練」も行い、職員全員、積極的に参加をし、充実した訓練となりました。

今回の訓練で防災意識を高めつつ、消火器具・消火設備の操作が出来るよう体で覚え、全員が無事避難できるよう計画の改善を行います。次回の訓練ではより素早く適切な行動ができるよう職員一同努めてまいります。

（TTHAグループ　津島将）

収蔵資料の持ち運びの説明を聞く職員

水消火器で訓練する解説員

県民と郷土を結ぶ総合博物館

青森県立郷土館

令和2年度 年間行事予定

企画展 収蔵資料でめぐる ふるさと再発見の旅
2020年4月24日(金)～6月14日(日)

TTHAグループ主催 金魚美抄展2020 ～金魚を描くアーティストたち
2020年7月11日(土)～8月23日(日)

企画展 鎌田清衛写真展 「青森の風土と人」
2020年9月4日(金)～10月18日(日)

TTHAグループ主催 第88回 東奥児童美術展
2020年10月30日(金)～11月8日(日)

特別展 蓑虫山人が夢みた「博物館」
2020年11月20日(金)～2021年1月17日(日)

TTHAグループ主催 第10回 東奥児童書道展
2021年2月10日(水)～2月21日(日)

その他事業

○土曜セミナー
○あおもり街かど探偵団(7/4・10/10)
○自然観察会(7/5・10/4)
○夏休みこどものくに(7/25・8/2)
○博物館実習(8/24～28)
○冬休みづくりまわし大会(1/10)
○ミュージアム探検隊(土日祝日・春休み期間)
○郷土館クイズラリー(夏休み・冬休み期間)
○授業に役立つ博物館研修(夏休み期間)
○出前授業・移動博物館・講師派遣事業(随時)

◇無料開放日◇

○5/16・17(国際博物館の日)
10/31・11/1(東北文化の日)

◇休館日◇

○4/23　5/18　6/15　7/8～10　8/24　9/3
10/19　10/29　11/9　11/19　12/14
12/29～1/3　1/18　2/9　2/22　3/12～17

◇開館時間◇

○4/1～22　11/10～3/31　9:00～17:00
○4/24～11/8　9:00～18:00

◇常設展観覧料◇

区　分	3～12月	1・2月
一　般	310円(250円)	250円(200円)
高校・大学生	150円(120円)	120円(100円)
中学生以下	無　料	

○(　)内は20名以上の団体料金。
○障がいのある方は免除。
○特別展の料金は、直接お問合せください。

◇交通機関◇

○JR青森駅より徒歩約20分
○市営バス　JR青森駅から
■国道経由
NTT青森支店前(または市役所前)
下車、徒歩約8分
■新町経由
新町二丁目下車、徒歩約8分
○市民バス　JR青森駅から
■青柳線
本町二丁目(または本町5丁目)
下車、徒歩約1分

総合博物館　青森県立郷土館だより　Vol.50　No.3　通巻176号　2020.3.13
【編集・発行】青森県立郷土館／TTHAグループ
〒030-0802　青森市本町二丁目8ー14
【TEL】017-777-1585
【FAX】017-777-1588

ホームページ　ブログ